

【全体概要】

スイートピーは品種の豊富さや日持ちの良さから国内外からの需要が高く、輸出量も増加傾向にある。しかし、天候の影響を受けやすく、定植直後や出荷開始時の高温遭遇による生理障害等の発生が問題となっている。そこで、細霧冷房による環境制御技術を検討・導入し、ハウス内温度上昇の抑制を図り、年内の安定出荷と品質向上を目指す。

新品種・新技術等の概要

○細霧冷房による環境制御技術細かい霧を施設内で気化させ、周囲の空気を直接冷やことで、秋期の温度上昇を2～3℃抑制でき、一定の環境制御技術の効果を確認できた。

また、定植後の初期生育が良好で、早期出荷が可能となることが確認できた。

なお、農家の自力施行も可能で、低コストである。



スイートピー栽培ほ場



細霧冷房装置

主な取組内容

【検討会等の開催】

- ・実証ほ現地検討会(年1回)
- ・実証ほ実績検討会(H30・1回)
- ・技術選定検討会(R1・1回)

【調査】

- ・消費地における出荷物品質調査(年1回)
- ・日持ち調査(H30・1回)

【マッチング活動の実施】

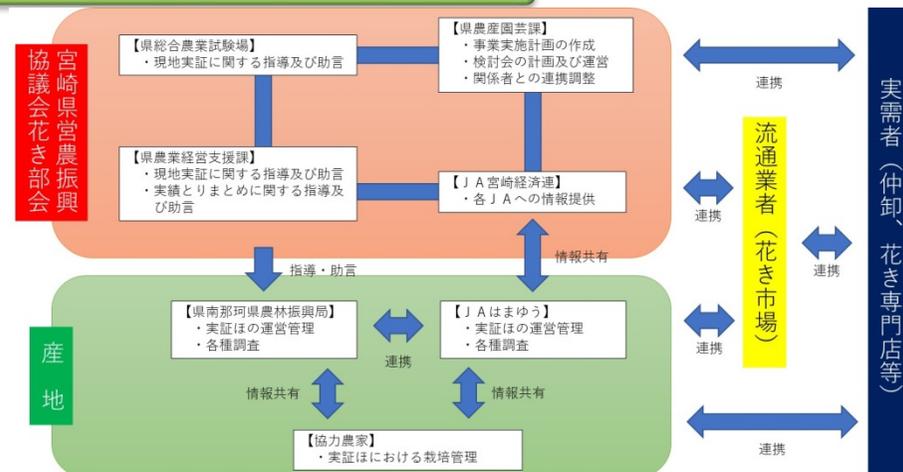
- ・実需者との意見交換・マッチング会(H30・3回、R1・2回)

【マニュアル作成】(R1)



細霧冷房導入マニュアル

実施体制図



実績と今後の展開

【導入時の課題】

- ・ノズルの長さや水圧によって放水までの時間に差があることから、各ほ場に応じた稼働サイクルを検討する必要がある。
- ・自力施工も可能であるが、施工にあたり、ある程度の知識や技術の習得が必要。

【今後の対応】

- ・作成した「細霧冷房導入マニュアル」を活用しながら、生産者・実需者・指導員を交えた検討会及び研修会等で技術の普及を図る。また他品目での活用検討も行う。